『社会学史研究』執筆要領

本執筆要領は、執筆者の便宜のため作成されたものです。執筆の際に参考にしてください。

1　原稿は縦書きとする。

2　註と参考文献は、分けて記載する。

3　本文と註には、著者、出版年、頁の順で記載する。
(1)著者名は姓のみ記載とし、同姓の文献がある場合には名の一字を付け加える。
(2)外国語文献は算用数字、邦文文献は漢数字を用いる。
(3)原著ページに加えて翻訳書ページを記載する場合は漢数字とする。
(4)著名な邦訳文献については原著ページを省略できる。
その場合、著者名はカタカナ、出版年は原著のものとし漢数字で表記する。

4　和文の区切りは「、」「。」とし、欧文の区切りは「,」「.」を用いる。

5　参考文献の記載例

●邦文文献

(1)単行本
著者、出版年、『書名』出版社またはシリーズ。
(例)清水幾太郎、一九八〇、『戦後を疑う』講談社
浜口恵俊、一九八八、『「日本らしさ」の再発見』講談社学術文庫

(2)論　文
(a)単行本論文：執筆者、出版年、「論文名」(編者、書名、出版社)
(例)寺尾琢磨、一九六六、「マルサスとマルクス」(南亮三郎、舘稔編『マルサスと現代』勁草書房)
(b)雑誌論文：執筆者、出版年、「論文名」(『雑誌名』巻号)
(例)中川友長、一九四〇、「将来人口の計算に就て」(『人口問題研究会』第一巻第二号)

(3)新　聞
『新聞名』年　月　日
(例)『毎日新聞』二〇一二年四月一日

(4)未刊行物
著者、論文とも既刊行物に準じて記載する。出版年は予定年月の後に予定と付記する。

●外国文献

著者名は原則として姓名を倒置するが、共著の場合は二人目からは倒置しない。翻訳のある場合は、( ) 内に邦文文献の記載順序にしたがって記載する。

（1）単行本

著者, 出版年,書名 (イタリック), 版次, 出版地, 出版社.

(例) Samuelson, P.A., 1964, *Economics: An Introductory Anlysis,* 6th ed., New York, McGraw-Hill. (都留重人訳、一九六六、『経済学―入門的分析―』岩波書店)

（2）論　文

<単行本論文>

執筆者, 出版年, "論文名", in 書名 (イタリック), ed., 編者名,出版地, 出版社

(例) Chakravarty, S. and R. S. Echaus, 1961 "Choice Elements in International Planning" in *Capital Formation and Economic Development,* ed. P.N. Rosenstein-Rodan, London, Allen & Urwin.

<雑誌論文>

執筆者, 出版年, "論文名", in 書名 (イタリック), 巻, 号.

(例) Lokanathan, P. S., "Regional Co-operation and Development." *Indian Economic Journal,* Vol. 15.No. 3 .

（3）新　聞　　新聞名 (イタリック), 出版地, 日, 月, 年.

(例) *The Jerusalem Post,* Jerusalem, 12 April, 1971.

（4）未刊行物

著者、論文とも既刊行物に準じて記載し、出版予定年の後に(unpublished)と付記する。

●同じ著書の文献

同じ著書の文献については、二つ目から著者名を ―― (ダッシュ)で省略する。

●番号の付け方

(1) 註の番号 (Key Number) は、原則として註を必要とする単語、または文章の終わりの右側下方に付け、一連番号とする。

(2) Key Number には、算用数字を用い上下のカッコを付ける。

(例) ○　○　○　○(1)

○　○(2)　○　○

(3) 註と参考文献は、全文の終わりに一括記入する。

(例)

(1) ○　○　○　○

(2) ○　○　○　○

(3) ○　○　○　○